

2002年第7週報告分

- 発生動向総覧 / 調査票通信
- 全数届出患者数一覧表
- 定点報告疾病集計表
- 疾病別グラフ(四類定点週報告分)
- 病原体検出情報(表・グラフ)
-インフルエンザ-
- 年齢階級別累計表
- 保健所別累計表

2002年1月報告分

- 発生動向総覧 / 調査票通信
- 疾病別グラフ(四類定点月報告分)
- 年齢階級別累計表
- 保健所別累計表
- 医療圏別累計表

感染症豆知識

- 献血とエイズ

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都立衛生研究所疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



(全数情報)

- ・コレラ(疑似症)が1件報告された。NAGビブリオが検出された。推定感染地はタイである。
- ・腸チフスが1件報告された。国内感染が推定されている。同居の外国人からも菌が検出され、現在調査中である。
- ・腸管出血性大腸菌感染症が3件報告された。3件は同一家族で、いずれも血清型O157(VT1+VT2産生)が検出された。
- ・アメーバ赤痢が2件報告された。推定感染地はインドネシアと国内(感染経路不明)である。
- ・急性ウイルス性肝炎が1件報告された。B型で、異性間性的接触による感染が推定されている。
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症が1件報告された。53歳の女性で、敗血症性ショックにより死亡した。
- ・HIV感染症が11件報告された。無症候性キャリア7件、AIDSが3件、その他(ARC)1件である。推定感染経路は異性間性的接触2件、同性間性的接触8件、不明1件である。
- ・梅毒が1件報告された。無症候梅毒である。
- ・レジオネラ症が2件報告された。67歳の男性は尿中抗原陽性で、発病前2週間以内に旅行歴はなく、自宅も24時間風呂ではなかった。他の1件は67歳男性で、尿中抗原陽性、超音波加湿器を自宅で使用していた。加湿器の水を調査したが、レジオネラ属菌は検出されなかった。

(推定される感染地は医師の届出によるものです)

(定点情報)

- ・インフルエンザの報告は依然として多い。感染性胃腸炎も多い。成人麻疹が報告されている。

(病原体情報)

- ・菌株で搬入されたMRSA3株のコアグラ-ゼ型は全てII型で、溶血性レンサ球菌8株のT型はT-1型3件、T-6型1件、T-12型1件、T-25型2件、UT1件であった。
- ・定点から搬入された咽頭拭い液1件からコアグラ-ゼV型のMSSAとT-1型の溶血性レンサ球菌が検出された。
- ・インフルエンザおよび上・下道炎患者15名の咽頭拭い液、鼻汁からA香港型インフルエンザウイルスが6件、Aソ連型インフルエンザウイルスが6件、B型が3件検出された。このうち2名からはアデノウイルスも検出された。
- ・肺炎、咽頭炎、痙攣(2名)、肝障害の患者計5名の咽頭拭い液からアデノウイルスが検出された。
- ・胃腸炎(2名)、脳症患者計3名の糞便からアデノウイルスが検出された。
- ・上気道炎患者2名からアデノウイルス1型が分離された。
- ・感染性胃腸炎患者の便からA群ロタウイルスが検出された。
- ・流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、痙攣重積患者3名の髄液からムンプスウイルスが検出された。
- ・デング熱患者の18病日の血清からデングウイルス特異IgM/IgG抗体が検出された。
- ・他のデング熱患者の8病日の血清からデングウイルス特異IgM抗体が検出された。
- ・先天性サイトメガロウイルス感染症の乳児の尿からサイトメガロウイルスが検出された。
- ・集団風邪の患者3名のうがい液からAソ連型インフルエンザウイルスが検出された。
- ・胃腸炎集団発生14事例の患者の検体26件からSRSVが検出されている。
- ・多摩地区の定点から搬入されたインフルエンザ患者の咽頭拭い液からA香港型インフルエンザウイ

ルスが12件、Aソ連型インフルエンザウイルスが5件検出された。

- ・保健所から搬入された血清54件中1件、定点から搬入された血清2件中1件から梅毒特異抗体が検出された。
- ・保健所から搬入された血清60件中19件、定点から搬入された血清2件中2件からクラミジア・トラコマチス特異抗体が検出された。
- ・定点から搬入された頸管拭い液10件中3件からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

(その他の情報)

- ・インフルエンザ脳炎、脳症の患者検体が引き続き定点から搬入されている。

調査票通信

定点医療機関からのコメントを掲載

台東区

- ・インフルエンザ5歳男児1名B型陽性。その他全員(8名)A型陽性(インフルA・B-クイック「生研」)。

墨田区

- ・インフルエンザは、12名中2名インフルエンザA抗原陽性(ディレクティジェンFluA)です。
- ・23歳男インフルエンザ抗原陽性ラピッドビューインフルエンザA/Bによる検査。

大田区

- ・全報告(13例)中、インフルA・B-クイック「生研」にて6例がA型。1例がA・B混合感染。
3例は他医にて診断A型と診断済み。1例は型不明。
残り2例は家族歴あり、A型とA・B混合感染各1例。
- ・5・6週とインフルエンザワクチン接種後のインフルエンザ発症止まらず。ワクチン株と流行株との抗原性は近いのでしょうか。
「ワクチンうったのに」という母親達の恨めしそうな視線を感じつつ、外来診療中です。先週(6週)4例、今週(7週)2月13日現在ですでに2例続いています。ラピッドビューインフルエンザ陽性、臨床的にA型でシンメトレル投与にても、場合によっては綺麗な2峰性発熱と激しい咳嗽。本当に抗原性が合っているのでしょうか？

世田谷区

- ・流行性耳下腺炎4歳児、平成9年6月予防接種済み。

多摩立川

- ・インフルエンザ、70代女性1名は予防接種なし。

狛江調布

- ・インフルエンザの散発的小流行がみられ、ところどころの学級閉鎖がみられます。

多摩東村山

- ・インフルエンザOIAにて診断20例、臨床診断6例で26例中インフルエンザワクチン接種者は1例です。

訂正 6週の調査票通信の一部を下記のとおり訂正いたします。

誤 大田区

- ・27例がA型で、うち22例はインフルA・B-クイック「生研」にて検査。

正 大田区

- ・27例がA型で、うち22例はインフルA・B-クイック「生研」にて診断。

全数届出患者数一覧表 2002年7週

分類	疾病名	東京都分(報告週)				全国分(診断週)
		4週	5週	6週	7週	7週
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	コレラ				1	1
	細菌性赤痢	2	1	4		12
	腸チフス	1			1	1
	パラチフス		2			1
	急性灰白髄炎					
	ジフテリア					
三類	腸管出血性大腸菌感染症				3	7
四類 (全数届出)	アメーバ赤痢		2	3	2	4
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					1
	回帰熱					
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)	2	6	6	1	11
	Q熱					
	狂犬病					
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病					1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1
	後天性免疫不全症候群	7	5	7	11	7
	コクシジオイデス症					
	ジアルジア症	1				
	腎症候性出血熱					
	髄膜炎菌性髄膜炎					
	先天性風疹症候群					
	炭疽					
	ツツガムシ病	2	1			1
	デング熱	1		1		
	日本紅斑熱					
	日本脳炎					
	乳児ボツリヌス症					
	梅毒	2	2	3	1	1
	破傷風					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1
	ハンタウイルス肺症候群					
Bウイルス病						
ブルセラ症						
発疹チフス						
マラリア					1	
ライム病						
レジオネラ症	1			2	1	

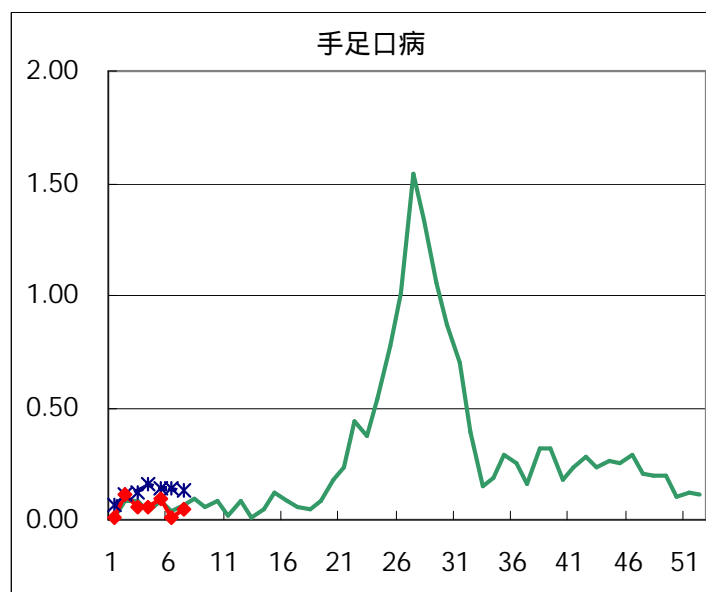
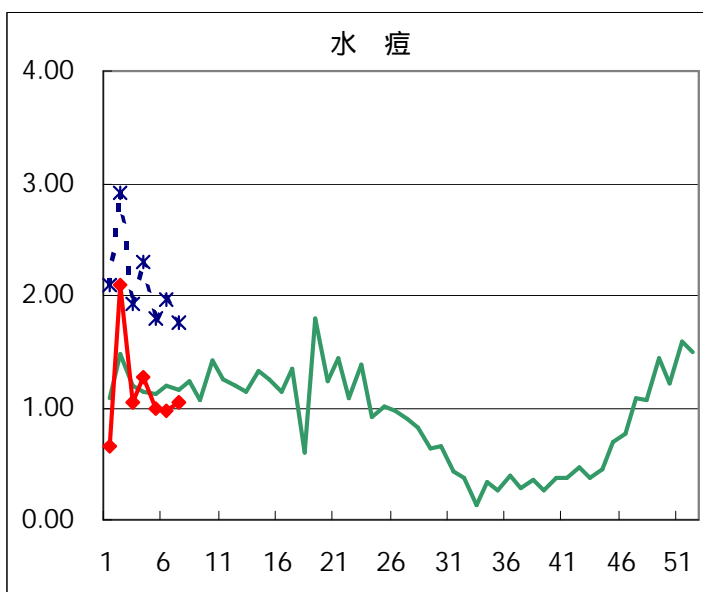
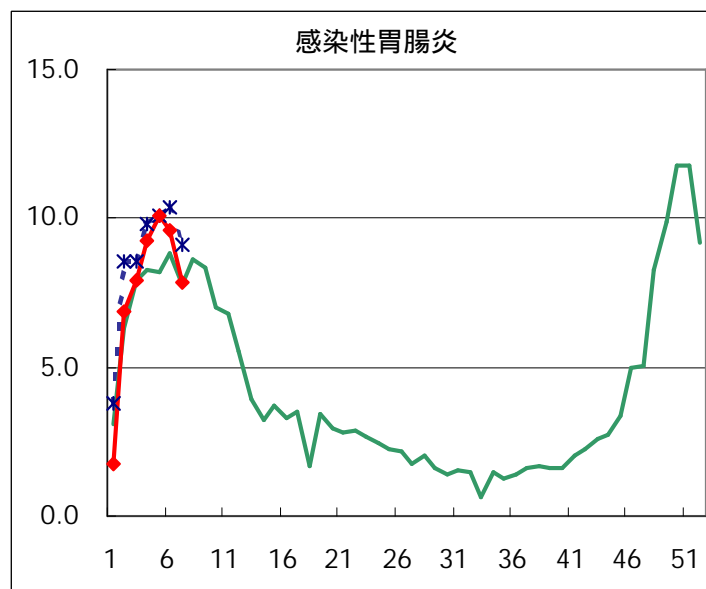
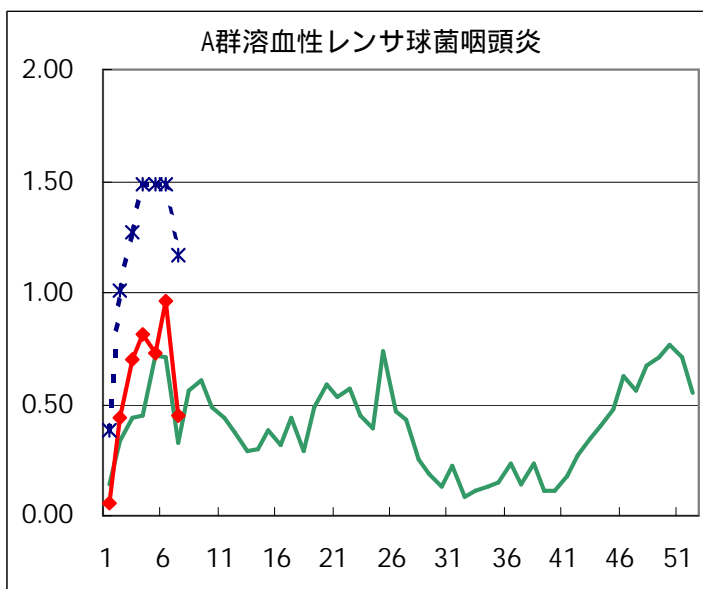
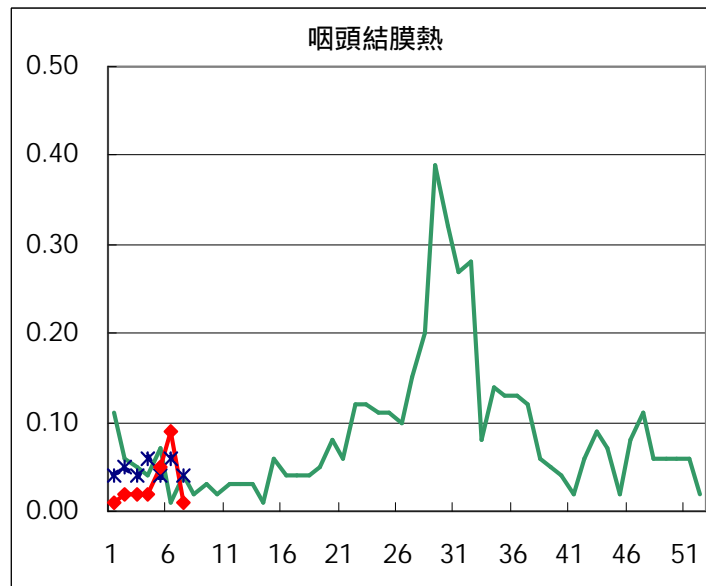
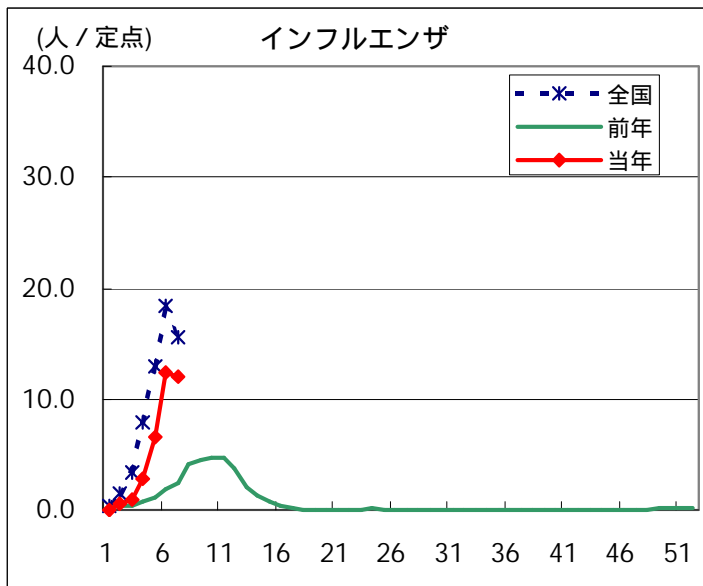
医師からの追加届出により増加することがあります(2002/02/20集計)。

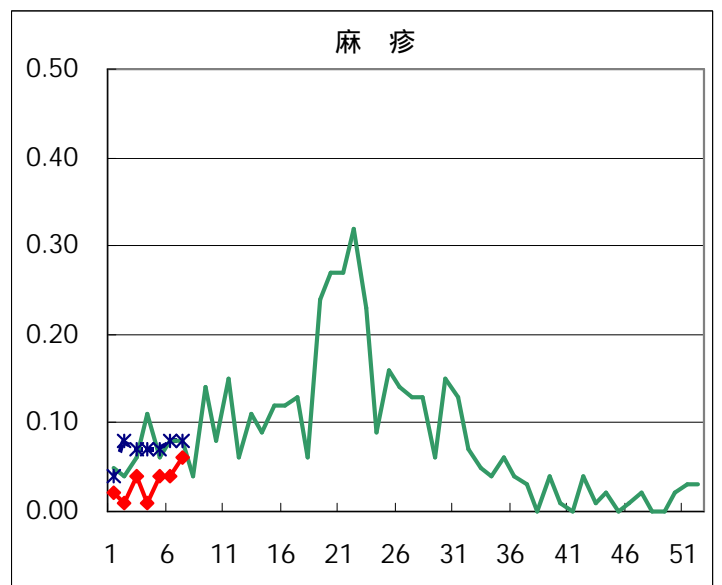
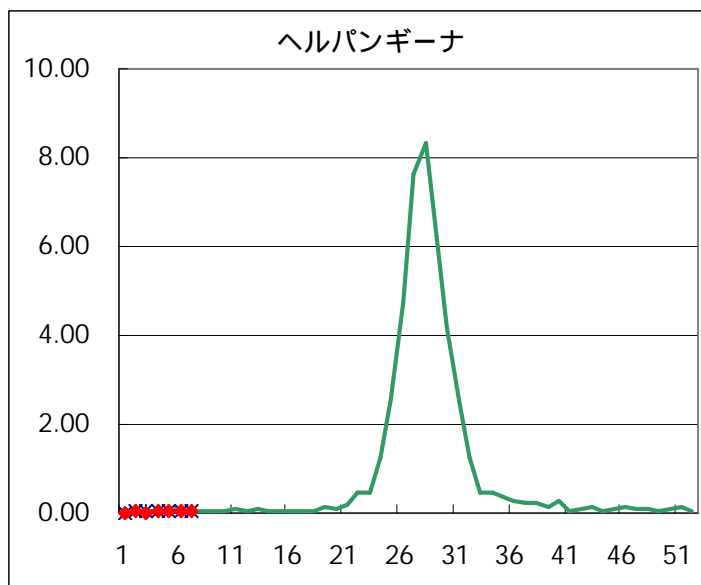
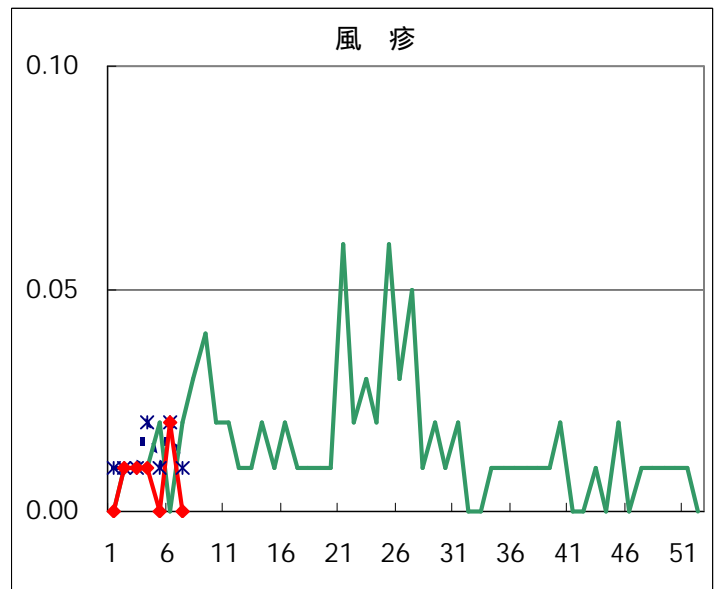
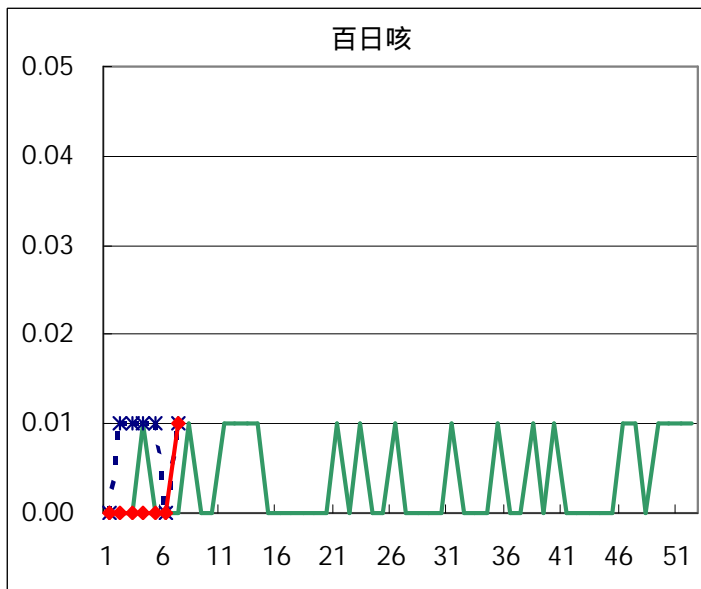
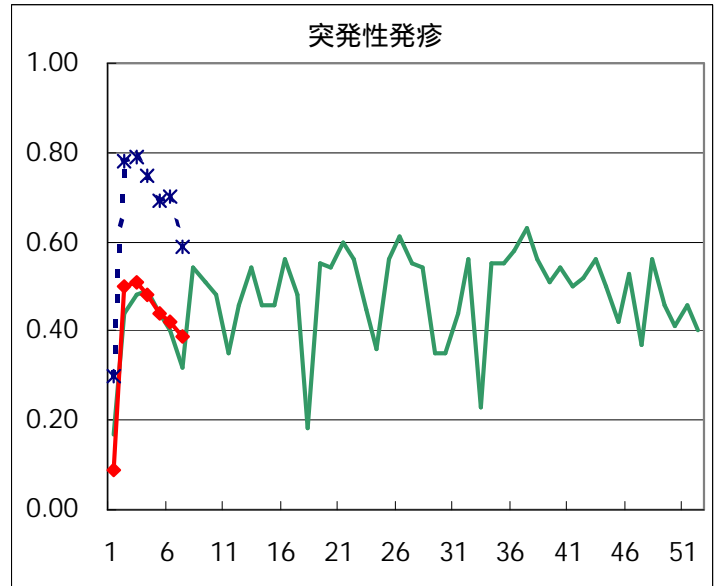
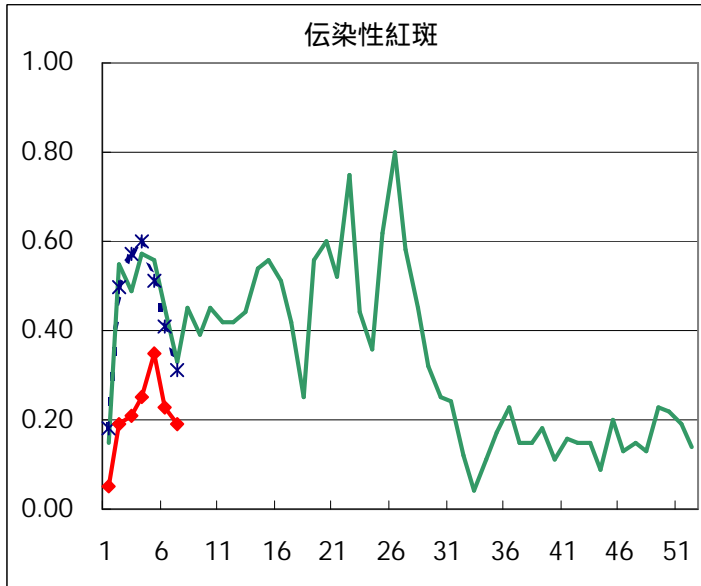
定点報告疾病集計表（男女別）

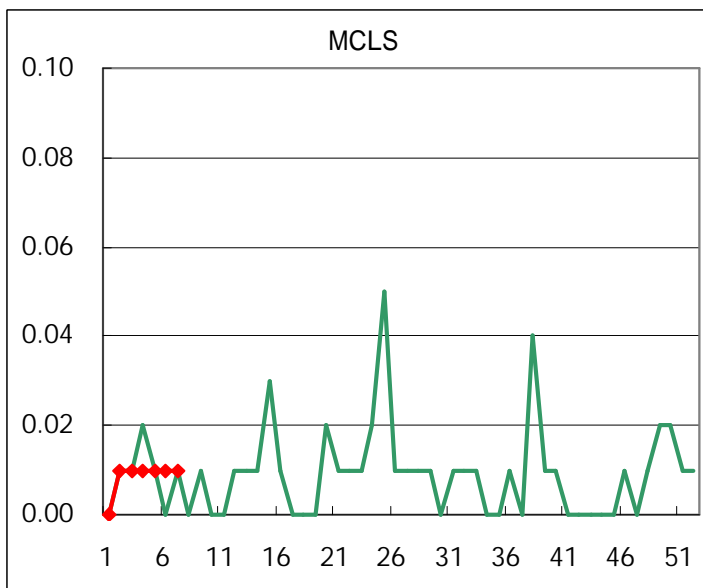
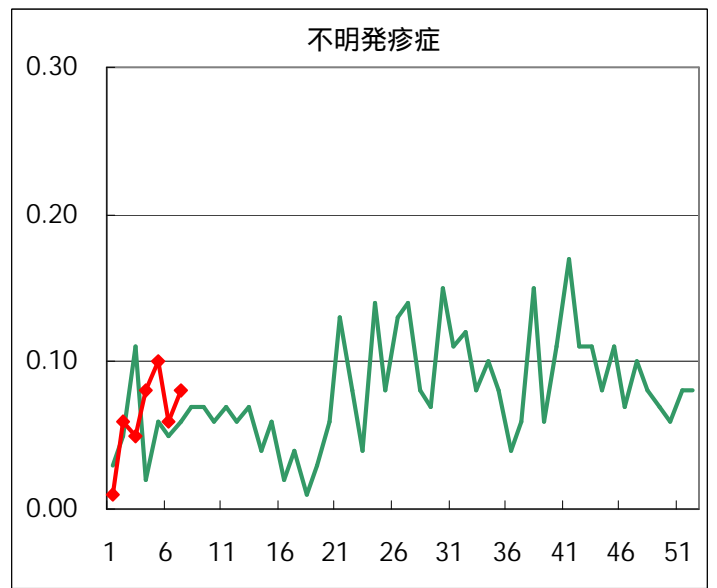
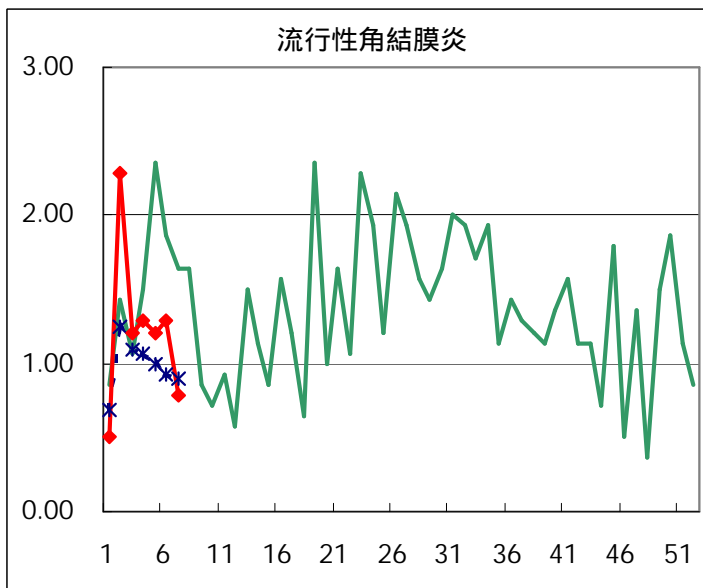
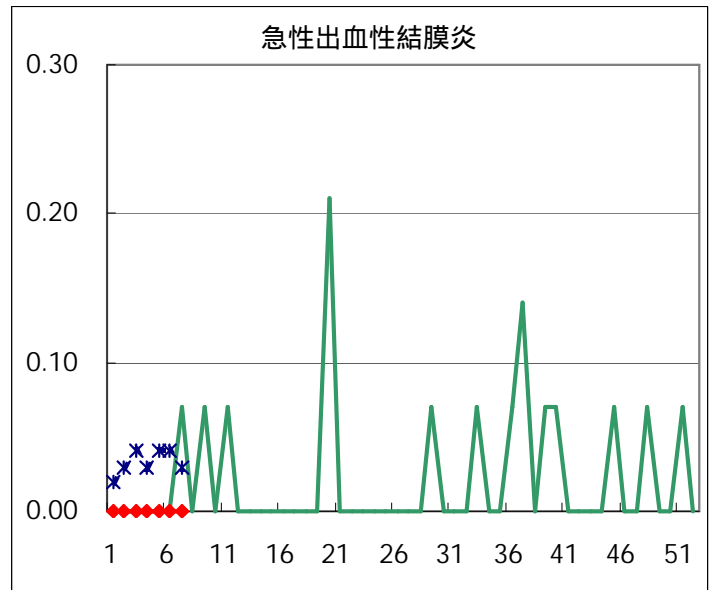
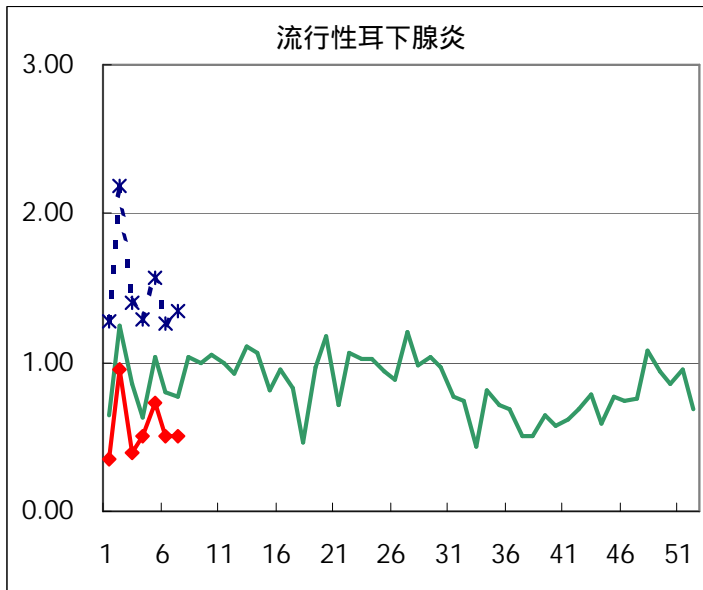
疾病名	性	2002年 週				累計
		4	5	6	7	
インフルエンザ	男	265	605	1135	1057	3062
	女	230	553	1084	1067	2934
咽頭結膜熱	男	1	1	4		6
	女	2	6	9	2	19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	66	46	74	27	213
	女	49	57	63	37	206
感染性胃腸炎	男	641	703	729	545	2618
	女	671	729	635	570	2605
水痘	男	99	75	76	76	326
	女	83	66	63	71	283
手足口病	男	5	3	1	1	10
	女	4	10	1	6	21
伝染性紅斑	男	16	21	17	15	69
	女	20	28	15	12	75
突発性発疹	男	36	32	38	22	128
	女	32	30	22	34	118
百日咳	男					
	女				1	1
風疹	男			2		2
	女	1		1		2
ヘルパンギーナ	男	5	2	2	3	12
	女	3	4	2	3	12
麻疹(成人以外)	男		4	3	3	10
	女	2	1	3	6	12
流行性耳下腺炎	男	36	53	40	35	164
	女	37	50	33	37	157
不明発疹症	男	6	6	6	3	21
	女	6	8	2	9	25
M C L S	男	2			1	3
	女		1	1		2
急性出血性結膜炎	男					
	女					
流行性角結膜炎	男	10	11	10	7	38
	女	8	6	8	4	26
急性脳炎（日本脳炎を除く）	男					
	女	1			1	2
細菌性髄膜炎	男		1			1
	女					
無菌性髄膜炎	男				2	2
	女			1		1
マイコプラズマ肺炎	男			1	1	2
	女	2	1			3
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男					
	女					
成人麻疹	男	1	1		2	4
	女	1		1	1	3

「累計」欄は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです。空欄は、報告がなかったことを示しています。

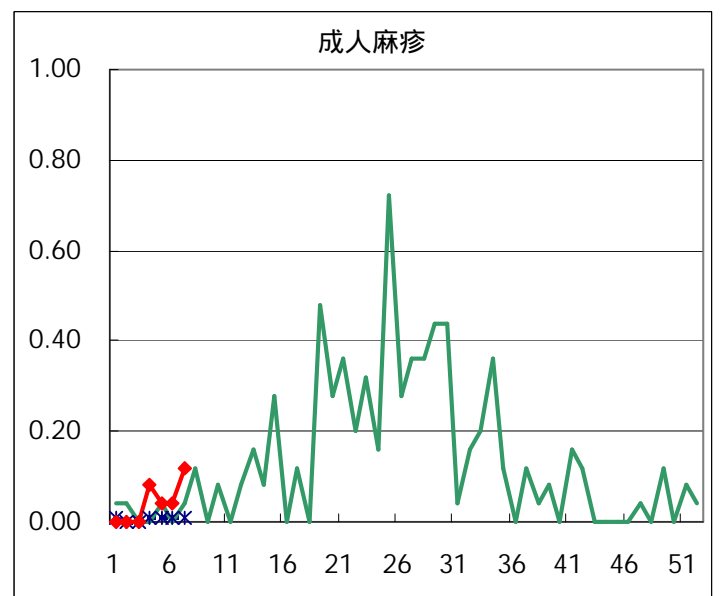
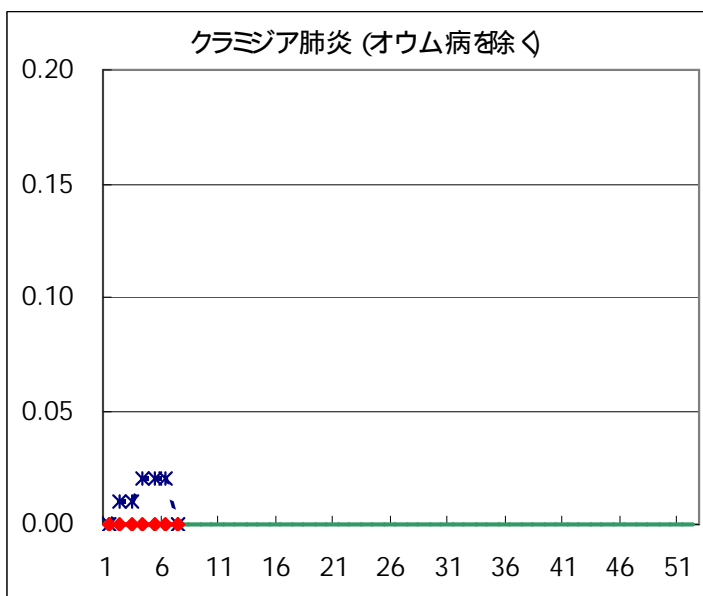
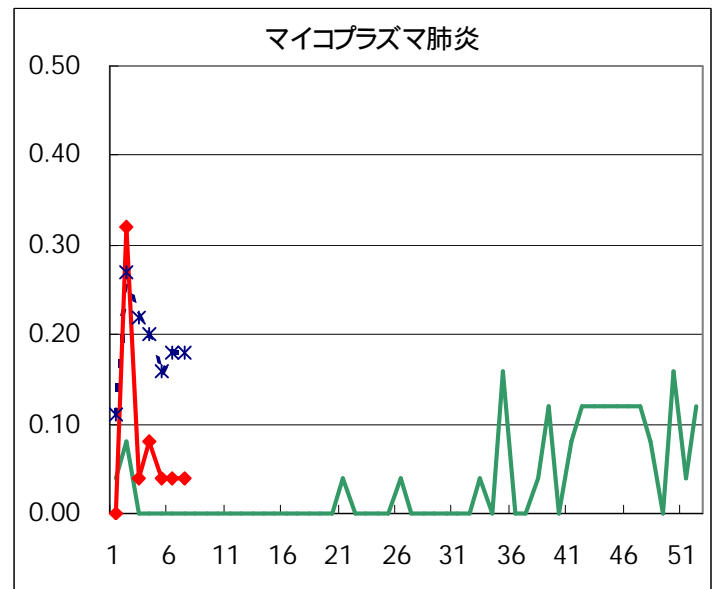
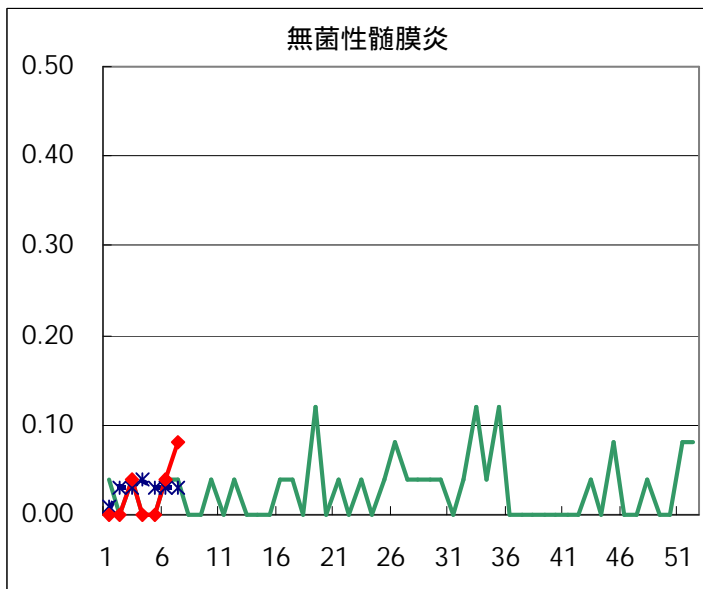
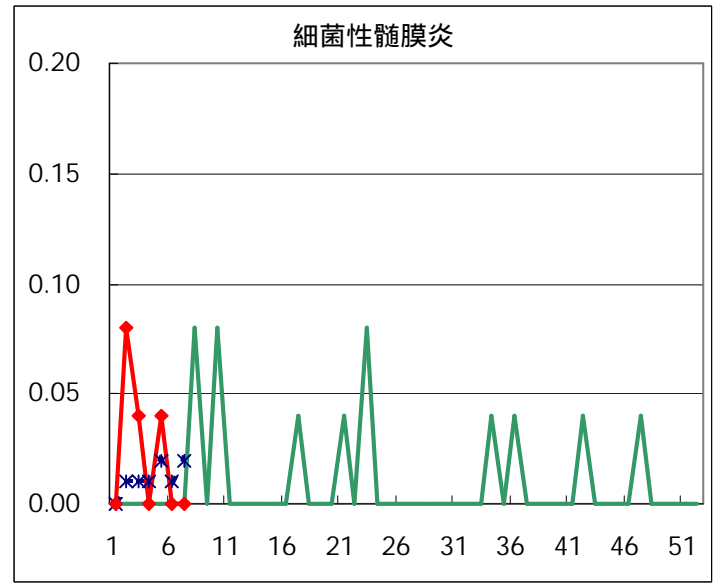
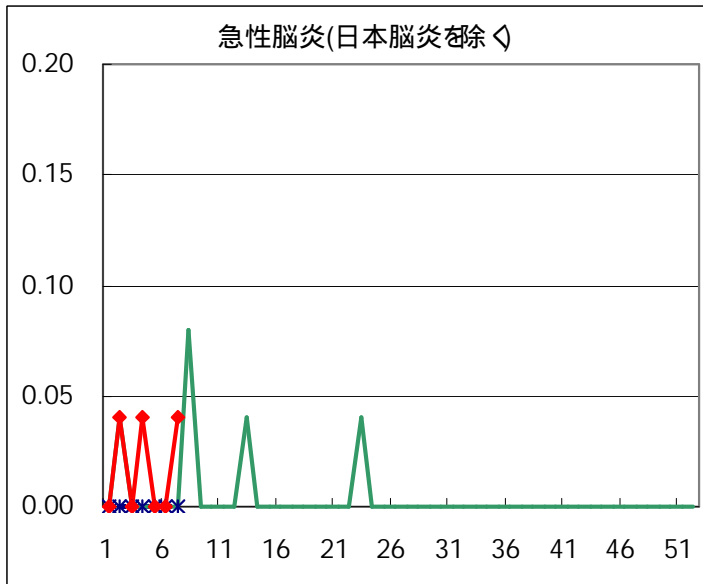
疾病別グラフ (四類定点週報告分)







疾病別の定点医療機関数	
疾 病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
急性脳炎	25
細菌性髄膜炎	
無菌性髄膜炎	
マイコプラズマ肺炎	
クラミジア肺炎	
成人麻疹	142
上記を除く疾病	



病原体検出情報

週別病原体 抗体検出結果 (2002年 7週)

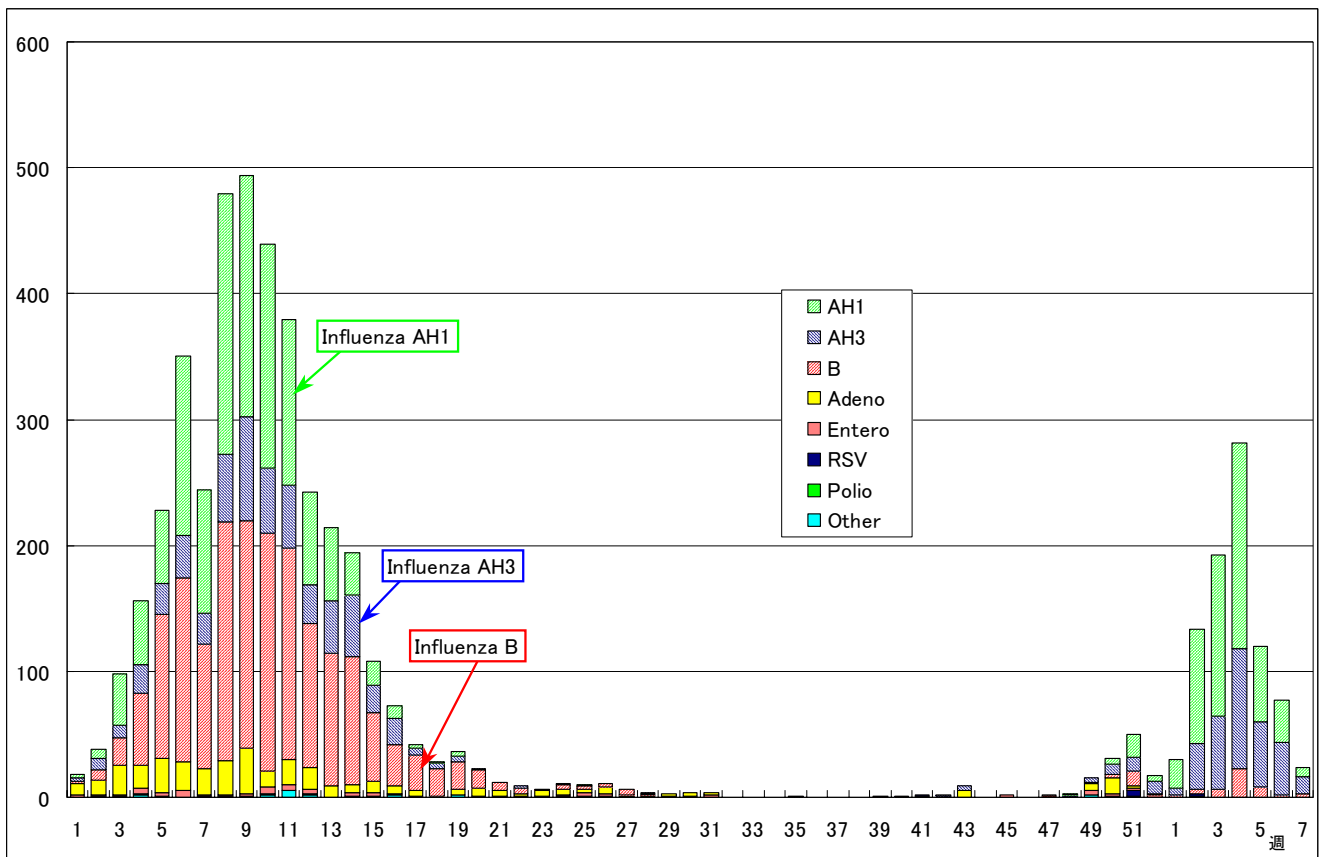
検出病原体 抗体		検体採取週				合計	
		2002年					
		4	5	6	7		
ウイルス	インフルエンザA香港型	8	8	14	18	48	
	インフルエンザAソ連型	3	2	5	8	18	
	インフルエンザB型			2	3	5	
	RSV						
	アデノ	6	7	5	5	23	
	エンテロ						
	SRSV=NLV	27	57	27		111	
	ロタ	18	1	4	1	24	
	単純ヘルペス		1			1	
	水痘 帯状疱疹	1				1	
	EBV						
	CMV			1		1	
	HHV6						
	ムンプス		3	1		4	
	麻疹						
	パルボB19	1	2			3	
	分離型別	ポリオ1					
		ポリオ2					
		アデノ1		2			2
		アデノ2					
アデノ3							
抗体	デング	1	1		1	3	
	ツツガムシ						
電顕							
細菌	カンピロバクター						
	サルモネラ						
	下痢原性大腸菌						
	O157						
	MRSAコアグラーゼ 型	4				4	
	MRSAコアグラーゼ 型	2	14	4	1	21	
	MRSAコアグラーゼ 型						
	MSSAコアグラーゼ 型				1	1	
	溶連菌T-1型	1	1	2		4	
	溶連菌T-4型			1		1	
	溶連菌T-6型		1			1	
	溶連菌T-12型	1	3			4	
	溶連菌T-25型	1				1	
	溶連菌UT		1			1	
性感染症	梅毒		3		2	5	
	クラミジア抗体	13	18	17	21	69	
	クラミジア遺伝子	2		2	3	7	
	淋菌遺伝子	1		2		3	

臨床診断名別病原体検出結果 (2002年4~7週)

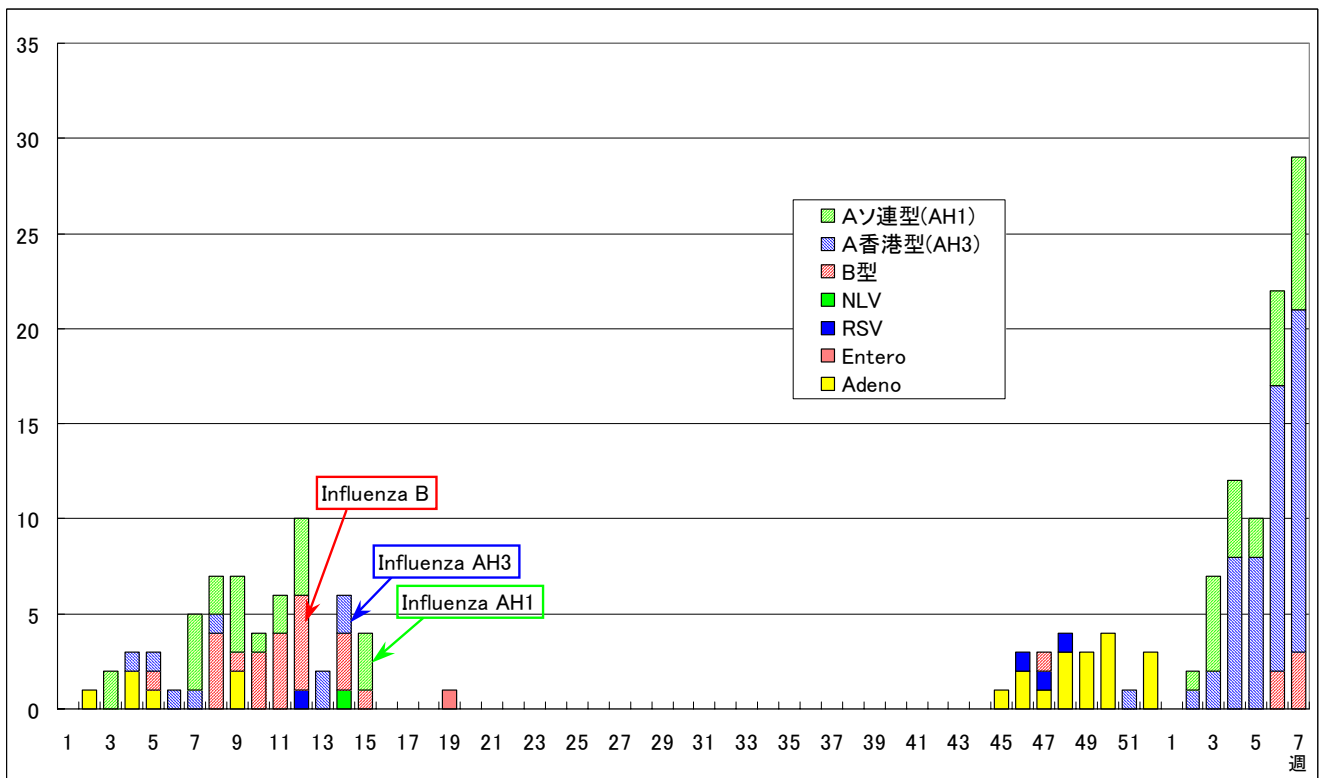
臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	ヘル パン ギ ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 疹	発 疹 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	口 内 炎	水 痘	そ の 他	合 計
インフルエンザA香港型	47	1															48
インフルエンザAソ連型	17	1															18
インフルエンザB型	4		1														5
RSV																	
アデノ	2	8	2		6											5	23
アデノ1		2															2
アデノ2																	
アデノ3																	
エンテロ																	
ポリオ1																	
ポリオ2																	
ムンプス							1					3					4
SRSV = NLV						111											111
ロタ						24											24
単純ヘルペス														1			1
水痘 帯状疱疹															1		1
パルボB19										2		1					3
カンピロバクター																	
サルモネラ																	
下痢原性大腸菌																	

病原体検出情報（インフルエンザ）

インフルエンザ(インフルエンザ様疾患)患者から検出されたウイルス（全国報告数<個票、速報から集計>）



インフルエンザ(インフルエンザ様疾患)患者から検出されたウイルス（東京都）



ウイルス研究科・多摩支所微生物研究科

(注)NLV:Norwalk-like virus (SRSV)

年齢階級別累計表 (2002年 7週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	M C L S
～ 6ヶ月	8			11	1			6				1				1	
～ 1歳	29			55	7		1	31	1			1				2	
1歳	100		1	117	26		2	18			1	1				7	
2歳	130		2	86	26	6	3	1				2	4			1	
3歳	168		4	80	23	1	3				1		7				
4歳	171	2	10	104	25		6				1		7				1
5歳	145		9	79	13		3					1	8			1	
6歳	100		17	65	10		4						12				
7歳	103		5	68	7		2					1	12				
8歳	69		4	50	5		1						9				
9歳	60		4	38	1								3				
10～14歳	214		3	108	2		2				1	1	7				
15～19歳	122		1	50							1	1			1		
20～29歳	241		4	204	1						1		3		4		
30～39歳	266														2		
40～49歳	120																
50～59歳	41																
60～69歳	22														3		
70～79歳	11														1		
80歳以上	4																
合計	2124	2	64	1115	147	7	27	56	1	0	6	9	72	0	11	12	1
先週比	-95	-11	-73	-249	8	5	-5	-4	1	-3	2	3	-1	0	-7	4	0

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。

眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (2002年7週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
千代田	29			13									1			2		45
中央区	8			4				1					1					14
みなと	37			10	4							1						52
新宿区	75			40	3		10	1					2		4			135
文京	21		7	16	3							1	3		2			53
台東	79		2	42	11		1	2				1						138
墨田区	36			17	1			1										55
江東区	39		2	35	2			3					2		2			85
品川区	55		3	55	4	1	1	6				1				2		128
目黒区	23		3	23	3			1					3					56
大田区	107	1		76	10	3	2	5								1		205
世田谷区	62	1	5	66	17	2	1	5	1			1	5					166
渋谷区	66		3	56	3	1												129
中野区	63			63	11		2	1					3					143
杉並	26			35	3		1						2					67
池袋	9			5	1			1					1		1			18
長崎				7	4			2										13
北区	112		2	33	14		2	7					3					173
荒川区	27			12	1								2					42
板橋区	91			17	5		1	1				1						116
練馬区	87		1	20	4								6			1		119
足立	134		1	32	7						1		1					176
葛飾	119		5	29	10		1	6			3		3			1	1	178
江戸川	83		18	56	3		1					3	2			1		167

保健所別累計表 (2002年7週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
多摩川	73		2	37	2			3					4					121
秋川	27		1	14									2					44
八王子	41		1	16	3		4								1			66
南多摩	45		1	35	3			2			2		1					89
町田	92			70	3			2					1		1	3		172
多摩立川	69		3	15	1								1					89
村山大和	64			12	1			1										78
府中小金井	34			11	1													46
狛江調布	93			27	1			2					1					124
三鷹武蔵野	64		1	30	1			2					15					113
多摩小平	68		1	25				1					6					101
多摩東村山	50		2	42	7								1			1		103
島しょ	16			19														35

東京都合計	2124	2	64	1115	147	7	27	56	1	-	6	9	72	-	11	12	1	3654
定点当り報告数	11.93	0.01	0.45	7.85	1.04	0.05	0.19	0.39	0.01	-	0.04	0.06	0.51	-	0.79	0.08	0.01	

発生動向総覧 (月報告分) 2002年 1月分

(性感染症)

今月から性感染症 6疾病のグラフを男女別とし、あわせて過去 5年間の月別定点当り報告数の平均値を折れ線で示しました。

・性器クラミジア感染症の報告数は、男が横ばいで、女はやや増加したが、男女ともに昨年同時期と同じ水準である。

・性器ヘルペス感染症の報告数は、男女ともに前月よりやや減少したものの、女は昨年同時期に比べると多い。

・尖形コンジロームの報告数は男女ともに横ばいで、男は昨年同時期に比べると少ない。

・トリコモナス症の報告数は男女ともに横ばいだが、女は 3倍近くに増加した。

・淋菌感染症の報告数は横ばいで、女は昨年同期に比べると少ない。

・梅毒様疾患の報告数は男女ともに昨年同時期に比べて少なく、それぞれ 1例ずつの報告である。

(基幹定点疾病)

・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告数は前月よりやや増加したが、昨年同時期と同じ水準である。

・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告数は前月より半減し、昨年同時期と同じ水準である。

・薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は前月より減少し、昨年同時期と同じ水準である。

(病原体情報)

・性感染症定点から血清 16検体が搬入され、クラミジア・トラコマチスIgG抗体が 11件検出され、そのうち 5件からIgA抗体も検出された。

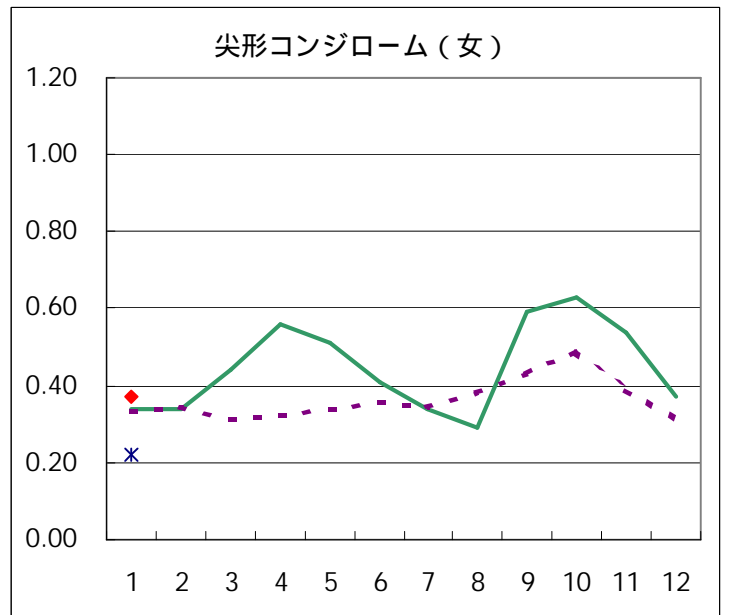
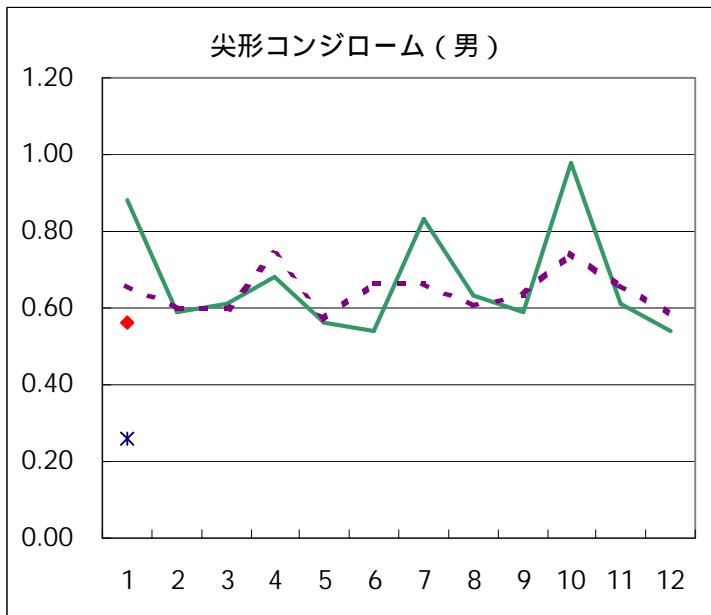
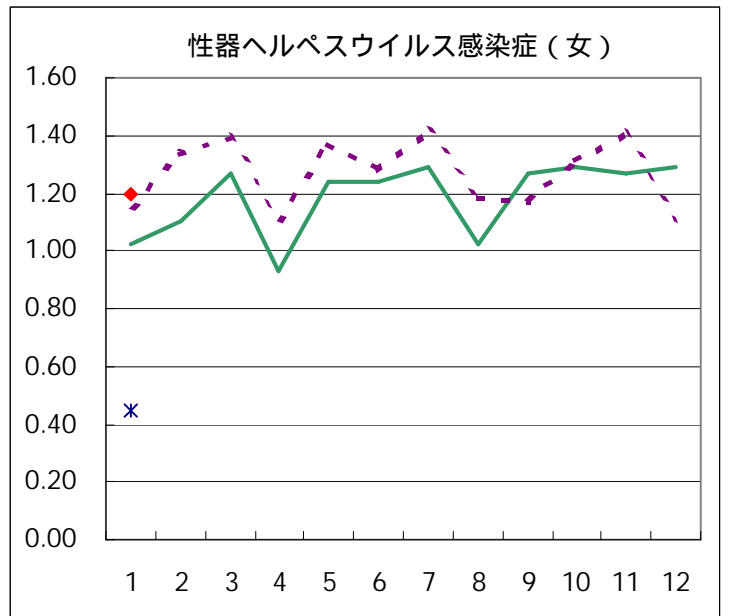
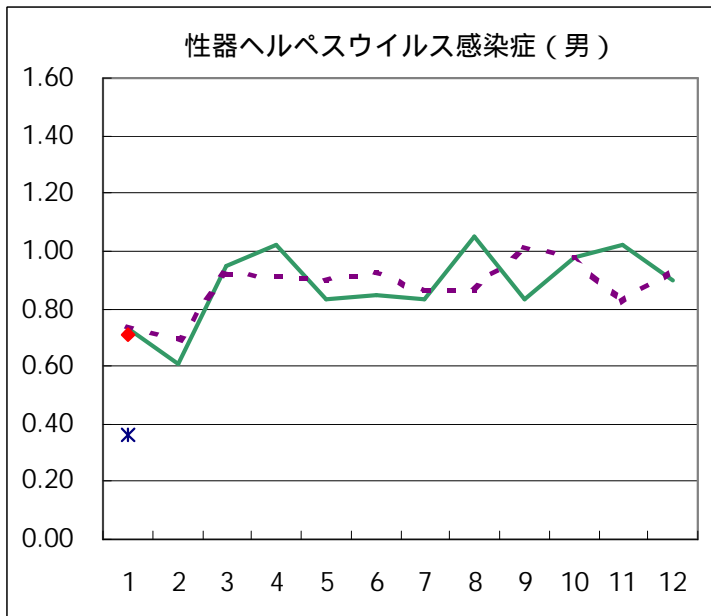
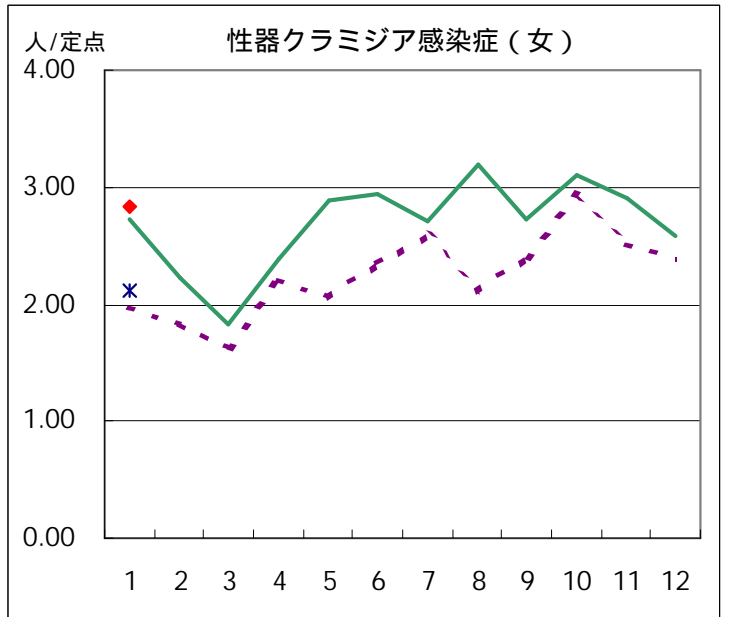
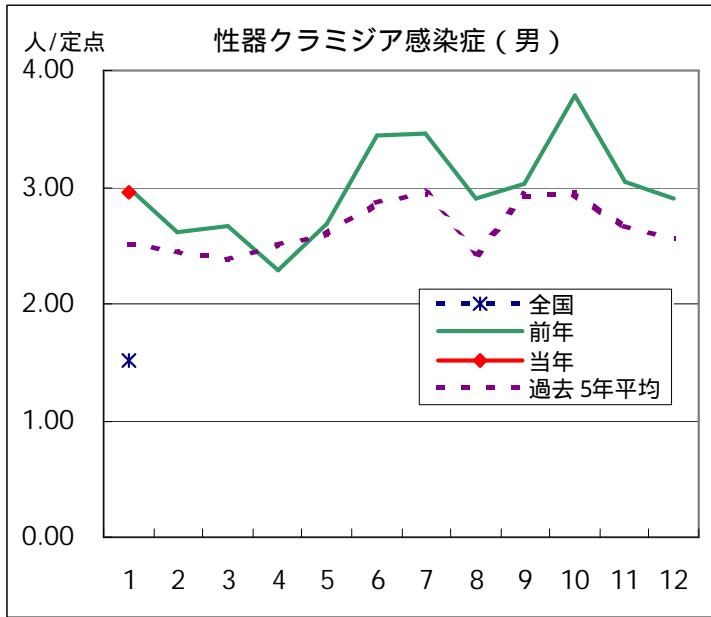
・性感染症定点から子宮頸管拭い液 49検体が搬入され、クラミジア・トラコマチス遺伝子が 5件検出された。

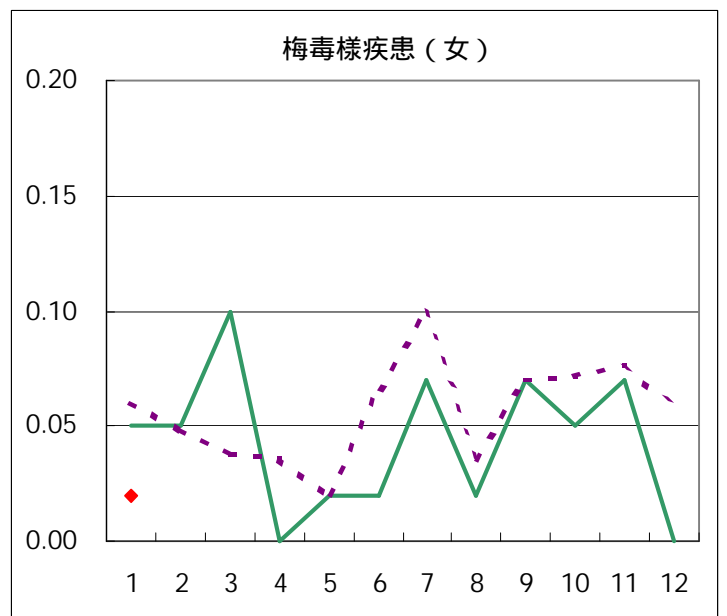
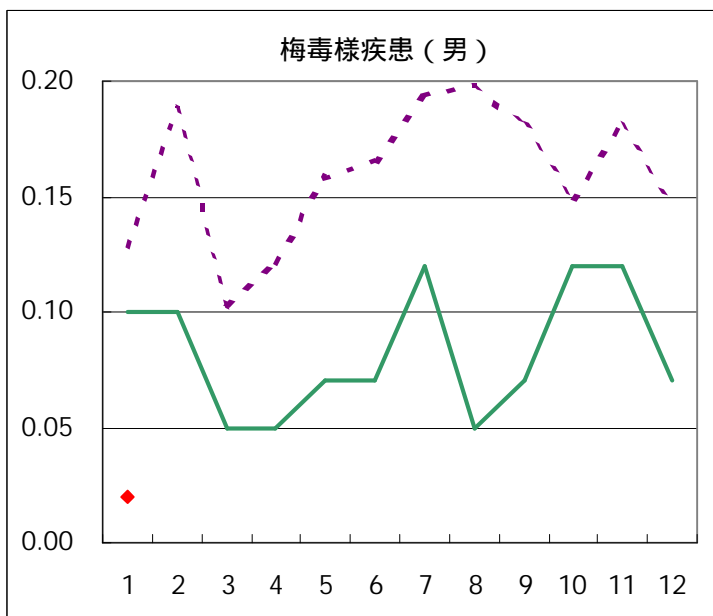
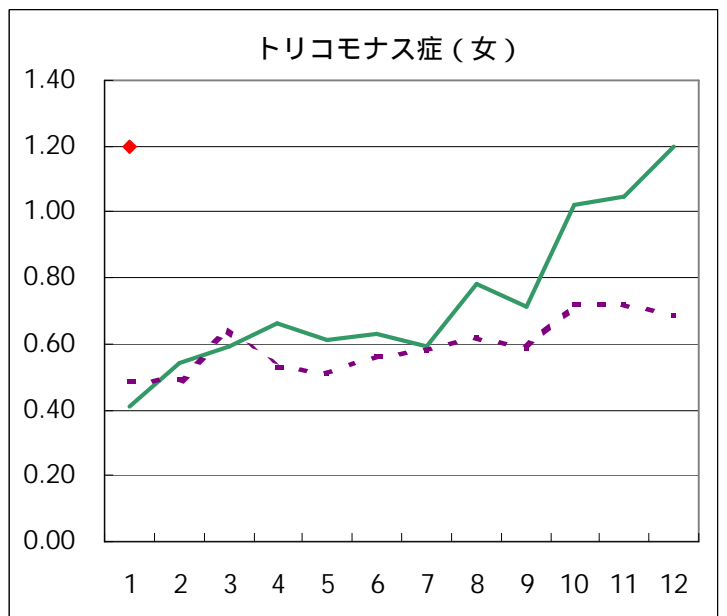
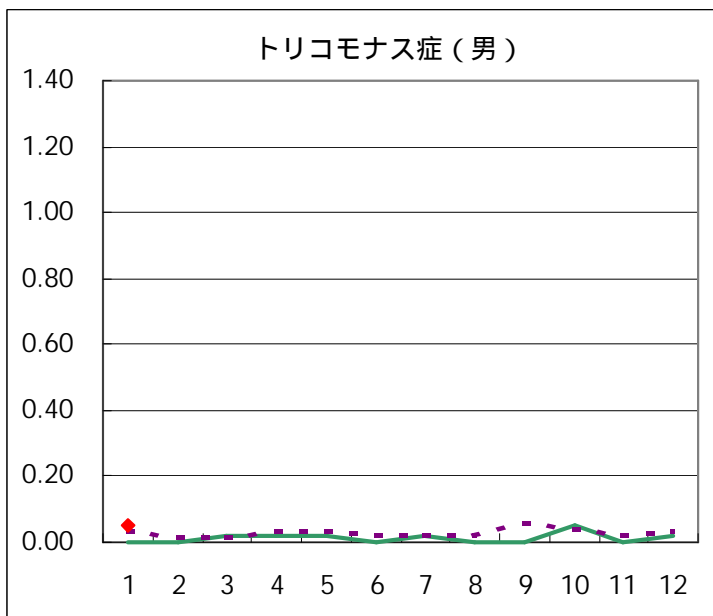
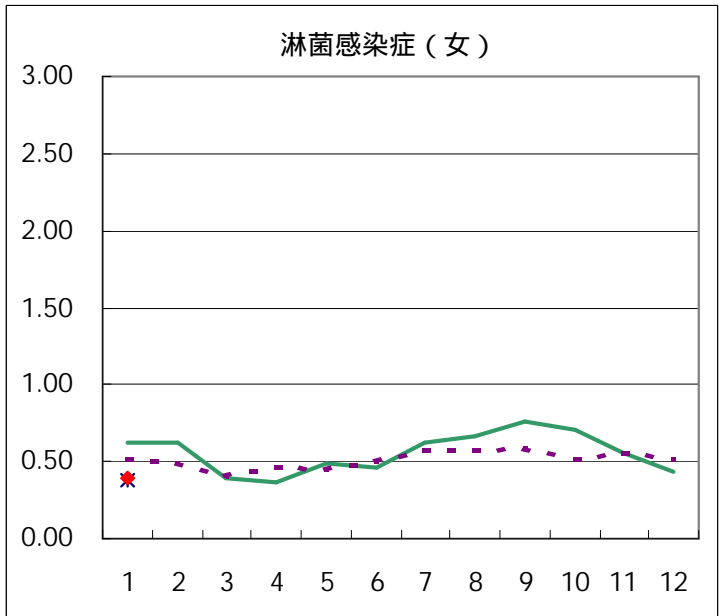
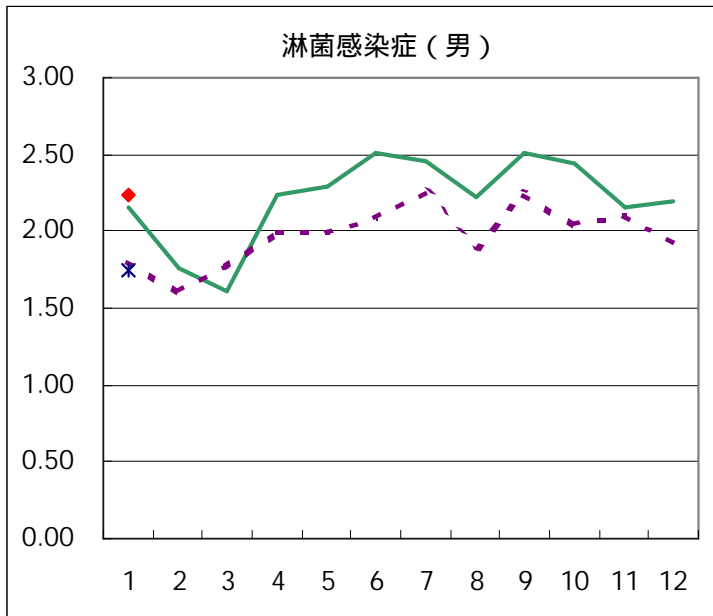
・このうちクラミジア・トラコマチス遺伝子の検出された 1名は血清からクラミジア・トラコマチス抗体も検出された。

調査票通信 定点医療機関からのコメントを掲載

今月は、定点医療機関からのコメントはありません。

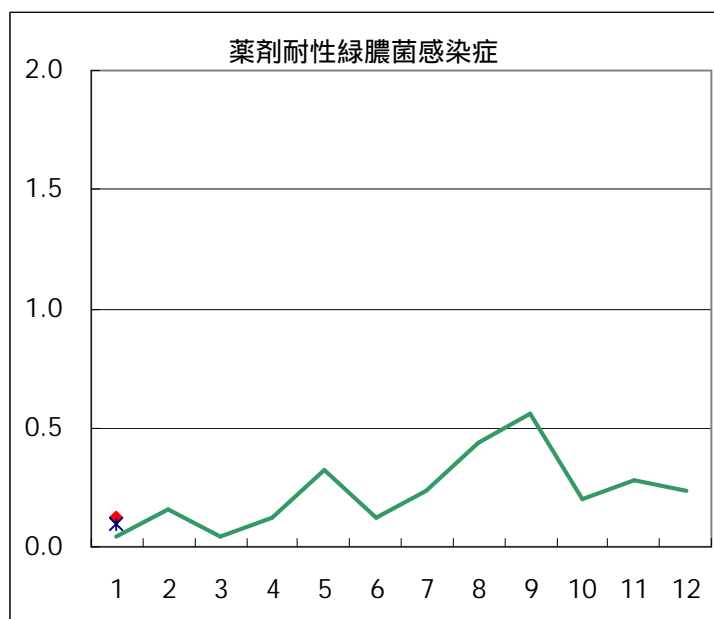
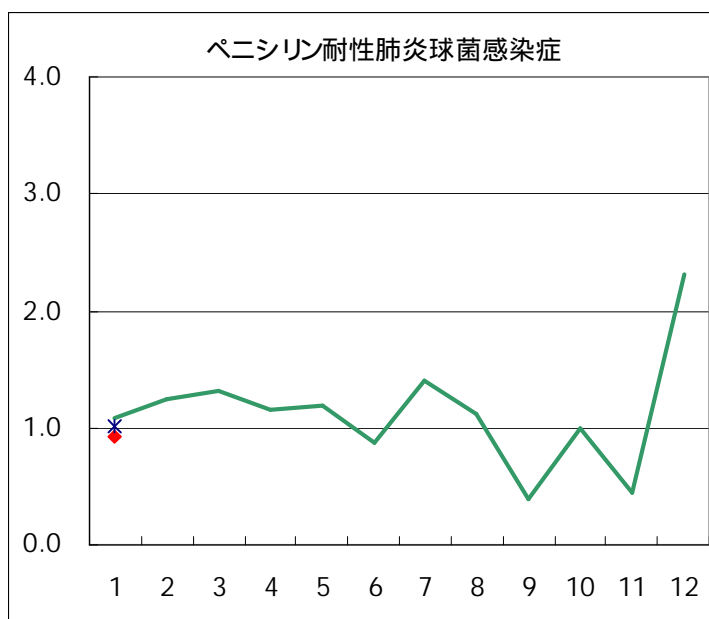
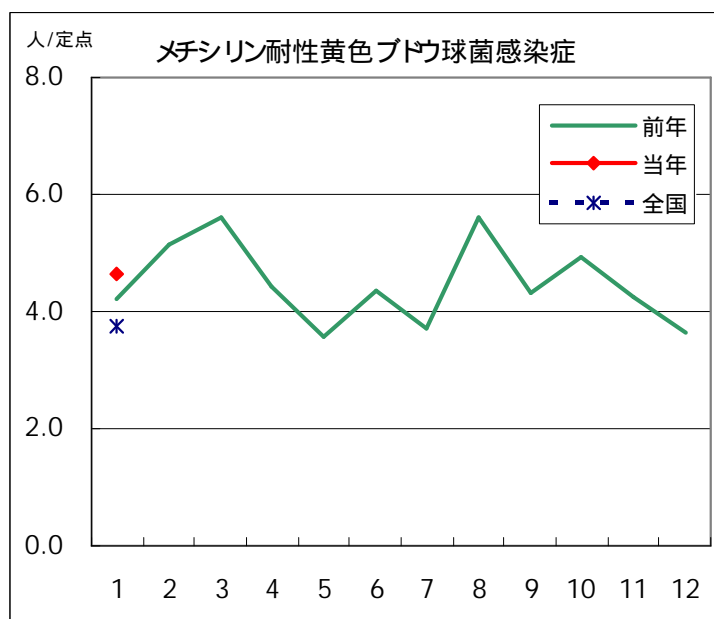
疾病別グラフ (四類定点月報告分)





基幹定点報告疾患集計 (2002年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	116												116
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	23												23
薬剤耐性緑膿菌感染症	3												3



疾病別の定点医療機関数	
疾 病	医療機関数
梅 毒	41
淋菌様疾患	
性器クラミジア	
性器ヘルペス	
尖形コンジローム	
トリコモナス	25
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	
薬剤耐性緑膿菌感染症	

S T I 年齢階級別累計表 (1 月)

男						
	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳			7	2	1	3
20～24歳			28	3	4	20
25～29歳	1		28	6	5	22
30～34歳	1		18	4	5	20
35～39歳			17	6	3	11
40～44歳		1	15	2	3	9
45～49歳			3	1	1	3
50～54歳			4	1	1	1
55～59歳				2		2
60～64歳			1	2		1
65～69歳						
70～歳						
合計	2	1	121	29	23	92
先月数	1	3	119	37	22	90
増減数	1	-2	2	-8	1	2

女						
	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳			20	3	3	6
20～24歳	12		41	14	3	4
25～29歳	6	1	25	14	5	3
30～34歳	8		16	8	1	1
35～39歳	4		7	4	1	
40～44歳	1		5	2	1	2
45～49歳	10		2	2		
50～54歳	2				1	
55～59歳	3			1		
60～64歳	1					
65～69歳	1					
70～歳	1			1		
合計	49	1	116	49	15	16
先月数	49	0	106	53	15	18
増減数	0	1	10	-4	0	-2

S T I 保健所別累計表 (1 月)

男								
保健所名	定点数	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症	総計
中央区	2				1	1	3	5
みなと	2			8		3	2	22
新宿区	5			22		2	3	49
文京	1							
台東	4			1				1
墨田区	1			6	5			3
江東区	3			26	10	4	25	65
品川区	1			2				2
大田区	3		1	1				2
渋谷区	3			8			1	9
中野区	1	1		7				8
池袋	3	1		19	4	9	11	44
北区	1			1			2	3
荒川区	1							
板橋区	2			8			2	10
足立	1			6		1	2	9
八王子	3							
町田	1							
多摩立川	2				1	1	8	10
三鷹武蔵野	1			6	3	2	4	15
合計	41	2	1	121	29	23	92	268
定点当り		0.05	0.02	2.95	0.71	0.56	2.24	6.54

女								
保健所名	定点数	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症	総計
中央区	2			1				1
みなと	2			7	4	1	2	14
新宿区	5	1		23	12	5	4	45
文京	1							
台東	4	18		29	16	4	5	72
墨田区	1							
江東区	3	1		12	2	2		17
品川区	1							
大田区	3				1			1
渋谷区	3			1				1
中野区	1	1						1
池袋	3	2		14	2	2		20
北区	1							
荒川区	1			2	2			4
板橋区	2				1			1
足立	1							
八王子	3	24		18	2	1		45
町田	1	1			3			4
多摩立川	2	1	1	6	1		4	13
三鷹武蔵野	1			3	3		1	7
合計	41	49	1	116	49	15	16	246
定点当り		1.20	0.02	2.83	1.20	0.37	0.39	6.00

STI保健所別定点当り累計表（1月）

男							
保健所名	定点数	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症
中央区	2				0.50	0.50	1.50
みなと	2			4.00	1.50	1.00	4.50
新宿区	5			4.40	0.40	0.60	4.40
文京	1						
台東	4			0.25			
墨田区	1			6.00	5.00		3.00
江東区	3			8.67	3.33	1.33	8.33
品川区	1			2.00			
大田区	3		0.33	0.33			
渋谷区	3			2.67			0.33
中野区	1	1.00		7.00			
池袋	3	0.33		6.33	1.33	3.00	3.67
北区	1			1.00			2.00
荒川区	1						
板橋区	2			4.00			1.00
足立	1			6.00		1.00	2.00
八王子	3						
町田	1						
多摩立川	2				0.50	0.50	4.00
三鷹武蔵野	1			6.00	3.00	2.00	4.00

女							
保健所名	定点数	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症
中央区	2			0.50			
みなと	2			3.50	2.00	0.50	1.00
新宿区	5	0.20		4.60	2.40	1.00	0.80
文京	1						
台東	4	4.50		7.25	4.00	1.00	1.25
墨田区	1						
江東区	3	0.33		4.00	0.67	0.67	
品川区	1						
大田区	3				0.33		
渋谷区	3			0.33			
中野区	1	1.00					
池袋	3	0.67		4.67	0.67	0.67	
北区	1						
荒川区	1			2.00	2.00		
板橋区	2				0.50		
足立	1						
八王子	3	8.00		6.00	0.67	0.33	
町田	1	1.00			3.00		
多摩立川	2	0.50	0.50	3.00	0.50		2.00
三鷹武蔵野	1			3.00	3.00		1.00

2次医療圏別累計表 (2002年1月) 総計 患者報告数

	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症	総計
区中央部	18		46	24	8	19	115
区南部		1	3	1			5
区西南部			9			1	10
区西部	3		52	14	8	26	103
区西北部	3		42	7	11	15	78
区東北部			8	2	1	2	13
区東部	1		44	17	6	28	96
西多摩							
南多摩	25		18	5	1		49
北多摩西部	1	1	6	2	1	12	23
北多摩南部			9	6	2	5	22
北多摩北部							
島しょ							
計	51	2	237	78	38	108	514

2次医療圏別累計表 (2002年1月) 総計 定点当たり発生数

	トリコモナス症	梅毒様疾患	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖形コンジローム	淋菌感染症	総計
区中央部	2.00		5.11	2.67	0.89	2.11	9
区南部		0.25	0.75	0.25			4
区西南部			3.00			0.33	3
区西部	0.50		8.67	2.33	1.33	4.33	6
区西北部	0.50		7.00	1.17	1.83	2.50	6
区東北部			4.00	1.00	0.50	1.00	2
区東部	0.25		11.00	4.25	1.50	7.00	4
西多摩							0
南多摩	6.25		4.50	1.25	0.25		4
北多摩西部	0.50	0.50	3.00	1.00	0.50	6.00	2
北多摩南部			9.00	6.00	2.00	5.00	1
北多摩北部							0
島しょ							0
計	1.24	0.05	5.78	1.90	0.93	2.63	41

献血とエイズ

東京都医師会感染症予防検討委員会

医療現場で行われる輸血の大部分は、献血に由来しており、その安全性の確保は極めて重要な課題である。

献血の安全対策として、日本赤十字社は、1999年から、すべての献血血液について核酸増幅検査(NAT)を実施して、B型肝炎(HBV)、C型肝炎(HCV)、HIVの3つのウイルスの有無を同時に検査し始めた。

HBV、HCV、HIVのウィンドウ期間は、抗体検査では、それぞれ平均59日、82日、22日であるが、NATを使うと、平均34日、23日、11日に短縮するとされる。HIVについては、ウィンドウ期による見落としが半減することになる。

2000年2月から2001年2月までにあった全国の593万献血検体では、HBV 100件、HCV 19件、HIV 4件がこの検査で陽性だった。

一方、国内における献血者延べ10万人あたりのHIV抗体陽性者の数は、88年の0.113から毎年増加を続けている。1999年には、ついに1.026となり、1を超えた。

また、同時期の首都圏での陽性率は10万人あたり2.64、関東ブロックでも2.08と高い。

こういった日本の値は、国内の推定感染率と比較した場合、欧州諸国に比べて約1.3倍高いとされる。

この理由として、日本では検査目的での献血が依然として行われている可能性が指摘されている。

このため、日本赤十字社では、エイズ検査が目的の場合や、その他危険が高い場合の献血は断っている。

(文責・松木一雅)